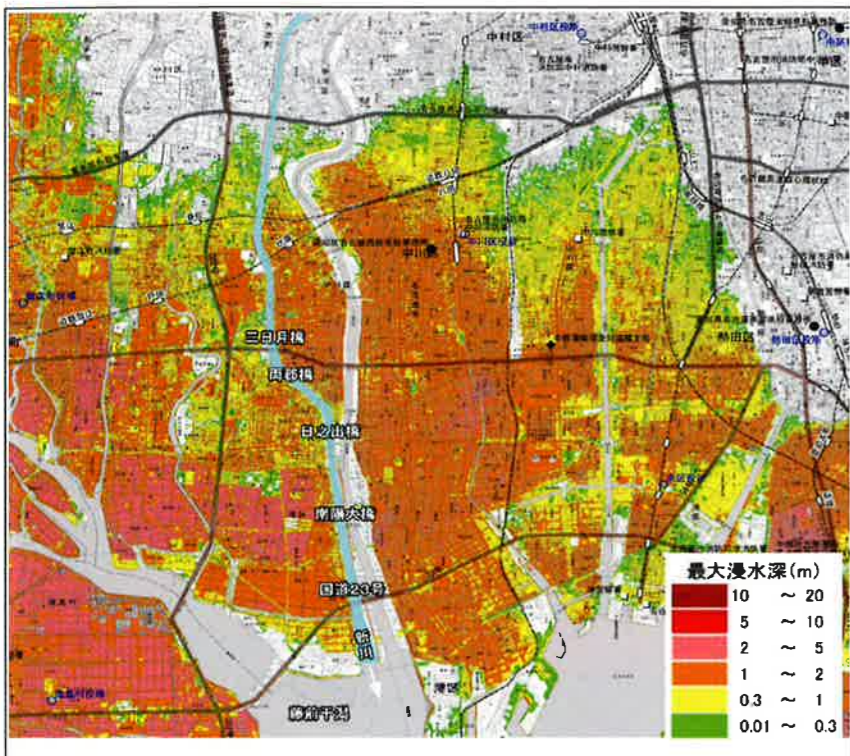


◆津波浸水想定◆



地震により堤防が沈下するなど最悪の条件を想定し※1、科学的に想定しうる最大クラスの地震・津波※2が来襲した際の、浸水の予測結果です。

お住まいの地域の浸水深等をご確認いただき、避難の参考としてください。

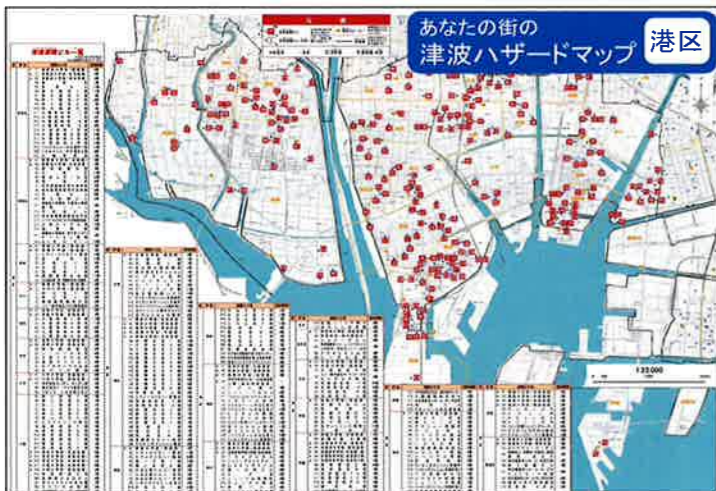
愛知県河川課のホームページで公表しています
(H26.11.26公表)
URL <http://www.pref.aichi.jp/Kasen/>

※1 計算において、堤防は、その高さが75%沈下し、越水した時点で破堤すると想定しています。その他、計算条件等については、ホームページに解説を掲載しています。

※2 科学的に想定しうる最大クラスの地震・津波発生確率が1000年に1度を超えるような、発生頻度は低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす地震・津波。東日本の地震・津波はこれに相当します。

◆津波ハザードマップ◆

「ハザードマップ」が名古屋市から配布されています。ご確認ください、日頃からの地震と津波の備えにお役立てください。



- 記載内容
- 津波避難ビル等を表示したマップ
 - 日頃からの津波への備え
 - 津波避難行動
 - 用意しておきたい非常持出品の一覧など

※詳しくは、名古屋市のホームページでご確認ください。

↓ URLはこちらです ↓

<http://www.city.nagoya.jp/bosaikikikanri/page/0000057004.html>

■身の回りでご確認ください！

「海拔表示」 ↓



「津波避難ビル」 ↓



津波避難ビル
TSUNAMI EVACUATION BUILDING
海啸避难大楼

河川管理施設(排水機場)の地震対策

河川堤防の地震・津波対策に加え、水場川排水機場についても、必要な地震対策を行います。

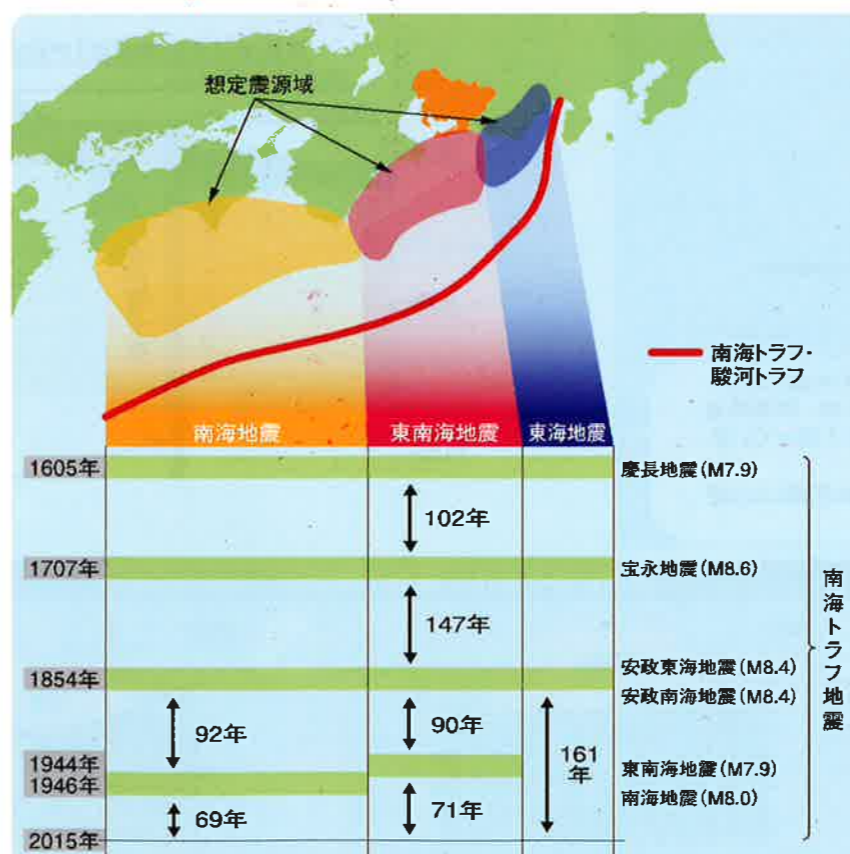


水場川排水機場

新川の地震・津波対策



南海トラフで、今後30年間に大地震が発生する確率は約70%



いわゆる東海地震、東南海地震等にあたる「南海トラフ地震」は、これまでおよそ100～150年前後の周期で発生しています。

最後に発生した昭和東南海地震、昭和南海地震からすでに約70年が経過しており、東海地震については、160年以上が経過しています。

南海トラフ地震の発生の切迫性は非常に高まっており、近い将来、必ず発生する地震であると考えられています。

平成26年12月に策定した
**第3次あいち
地震対策アクションプラン**
に基づき、
新川の地震・津波対策を行います。

総務省 消防庁 平成26年 消防白書、地震調査研究推進本部(2001)および中央防災会議(2001)を基に作成

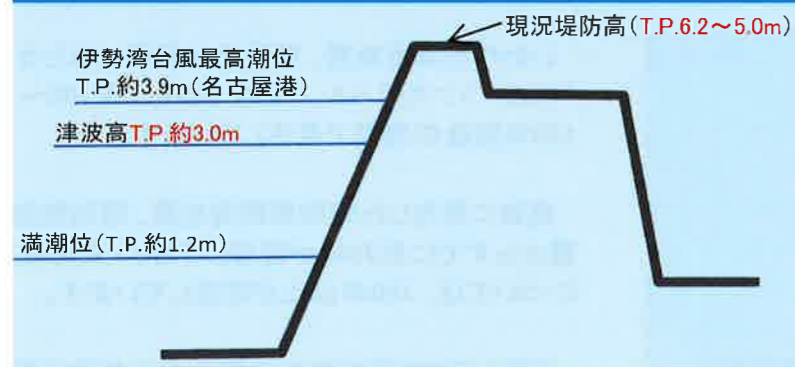
地震・津波対策の内容

平面図

地震・津波対策の対象区間において、必要な対策工事を順次進めます。
※今後の詳細な調査検討により、対象区間等が変更となる場合があります。

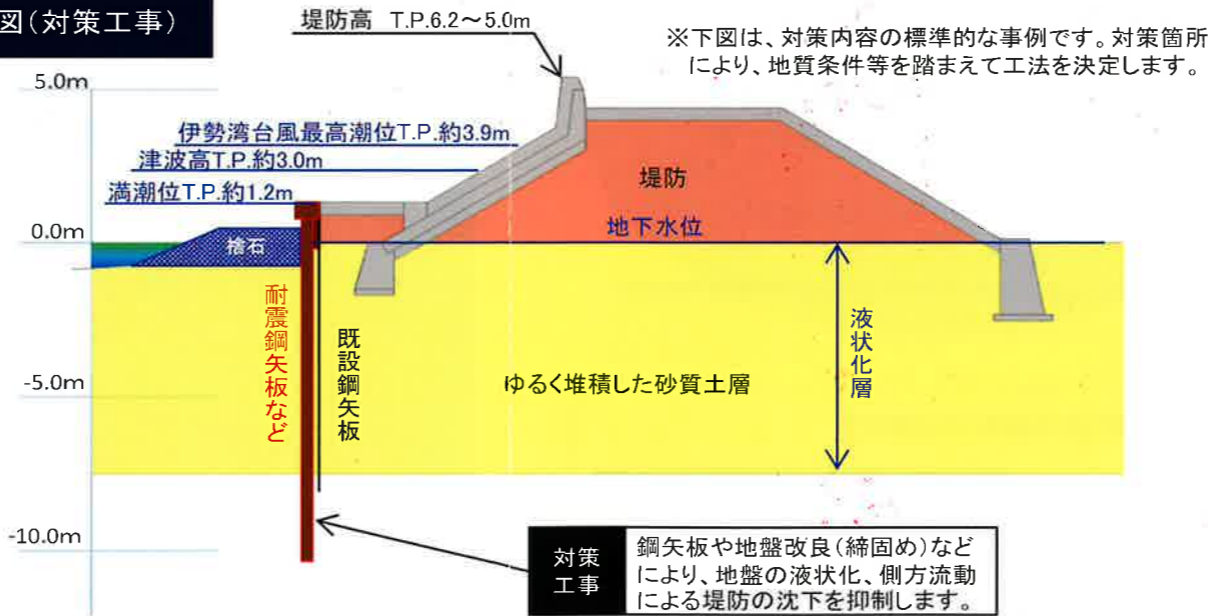


津波の高さはどのくらい？



南海トラフで発生する数十年~百数十年に一度規模の大地震により、新川河口にはT.P.約3.0mの津波が予測されています。これは、伊勢湾台風復興事業で整備された現在の堤防高(T.P.6.2~5.0m)を下回っていますが、大地震により堤防が沈下すると想定されています。津波高や堤防の沈下は、あくまでも想定です。大きな揺れを感じたときには、まずは避難行動をお願いします。

横断図(対策工事)



※下図は、対策内容の標準的な事例です。対策箇所により、地質条件等を踏まえて工法を決定します。

対策工事の効果は？

平成23年に発生した東日本大震災の際、対策工事の効果が確認されています。



地震に伴う液状化現象と堤防沈下のメカニズム

